巻　頭　言

「環境と生命の世紀」に求められる学会としての発展を

大　垣　眞一郎

20世紀が「技術革新と戦争の世紀」であったと言われるのに対して，21世紀は「環境と生命の世紀」と呼ばれるようになるといわれています。「環境」と「生命」は，日本が科学技術創造国家として立国するために打ち出された四つの分野の二つ（残り二つは，情報と材料・ナノテクノロジー）であります。環境と生命に関わる価値を生み出すテクノロジーは，単に社会を豊かにするだけではなく，これからの人類全体の生存を可能にするために無くてはならないテクノロジーと考えられます。

私は，環境バイオテクノロジー学会が，生命科学と環境科学を基礎として，これら二つの科学領域の融合の上に新しいテクノロジーを展開するために設立された学会であると理解しています。また，2000年7月に京都において国際環境バイオテクノロジーシンポジウム (ISEB2000) が開催されたことを契機に設立された学会であるとも承知しております。すなわち，環境バイオテクノロジー学会は，国際社会の中で日本が率先して，「環境と生命の21世紀」を文字通りに実現するために，また，人類の持続的発展に必要な環境を創出することに資する「環境バイオテクノロジー」という科学技術体系を確立するために設立された学会であると考えています。

まだ歴史の浅い学会ではありますが，掲げた目標と学会会員の学術研究のレベルの高さは，決して既存の学会に劣るものではありません。特に，「環境バイオテクノロジー」という新しい学術・技術の構築とそれによる人類社会への貢献という目標は，その達成には多くの困難が伴うこともあろうかと思いますが，極めて崇高です。

「環境バイオテクノロジー学会」が新世紀の学会として，研究者が集い交流する場にのみとどまることなく，人類に貢献できる学術分野・技術分野の研究者集団として，具体的な研究開発の成果を生み出されることを期待します。そのために，環境に関する産業分野と学界との密接な連携が必要です。またその連携によって新しい分野を切り拓いていくことの可能な科学技術分野であると考えます。これからはますます，日本における環境バイオテクノロジー研究の総合的な力を，世界の環境バイオテクノロジーの発展のために役立てることが求められることになると思います。

学会会員の皆様により，世界最高水準の環境バイオテクノロジーが創出されることを期待します。

（東京大学大学院工学系研究科長，（社）日本水環境学会会長，環境バイオテクノロジー学会会員）